



書首
 源氏物語
 三
 菊





三十

○今のうきまきり花々秀のまじり我や
よしてはあうきりおとてつらうかんとし
やうく人さの心也
或は玉うきの文秀とありひぬかき

○このうきまきり細ほ氏うきの内言傳也
○内うきの花さのい入舟のまじり也
細舟より文秀とほ使してほ氏へよれ
其よりとやうて玉うきの内方へよれ也

○このうき細玉うきほ氏への返答也

○この野分れお弄玉うきと夕霧のまじり也

○うきとわらわちよ巴娘兄弟とよひ也
細實子よきうてわらわじつま〜心得〜
とよひぬ〜也
○うきわらわちて巴娘夕霧と兄弟〜
〜
○此官つくと或は内侍のまじり官つくとまじり
必天子あり〜
又出〜ほ〜ほ氏のまじり〜と夕霧の
心中也

○このうきまきり細中宮まじりのまじり也
或はほ氏のまじり〜
〜
○むねぬ〜
或は夕霧のまじり〜

わらわのうきまきり
よしてはあうきり
やうく人さの心也
或は玉うきの文秀とあり
ひぬかき
細舟より文秀とほ使して
ほ氏へよれ
其よりとやうて玉うきの
内方へよれ也

この野分れお弄玉うきと夕霧のまじり也
うきとわらわちよ巴娘兄弟とよひ也
細實子よきうてわらわじつま〜心得〜
とよひぬ〜也
うきわらわちて巴娘夕霧と兄弟〜
〜
此官つくと或は内侍のまじり官つくとまじり
必天子あり〜
又出〜ほ〜ほ氏のまじり〜と夕霧の
心中也
このうきまきり細中宮まじりのまじり也
或はほ氏のまじり〜
〜
むねぬ〜
或は夕霧のまじり〜

○人よはつとせまうと花是はほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也 細夕霧のつらうも夕霧の夕霧也

○さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

○人の由とて細まう人よはつとせまうと
けつと夕霧の夕霧也 訓釈もろ也

○さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

人よはつとせまうと花是はほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也 細夕霧のつらうも夕霧の夕霧也
さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也
人の由とて細まう人よはつとせまうと
けつと夕霧の夕霧也 訓釈もろ也
さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

○さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

○十三日よ河出河原解除もろ也
盃除服の稜事也
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

○さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

○此はゆきさうの花 今まてほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也
人の由とて細まう人よはつとせまうと
けつと夕霧の夕霧也 訓釈もろ也
さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也
十三日よ河出河原解除もろ也
盃除服の稜事也
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也
さうせうとて花ほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也
此はゆきさうの花 今まてほ氏の由とてそ
あつと人のさうなふりてせとけつと夕霧
の夕霧也

○ちりこりと細中將の思ひの物ととも也
秀徳の思ひと今今これ衣の思ひ
と袖と袖の思ひとともも此語勢也

○さとしの思ひ細兄の思ひの思ひ
煙眼の思ひやうの思ひの思ひ
此衣の思ひ也
孟夕負の思ひと夕霧の思ひとも也

○此田の思ひ衣の思ひ祖母の思ひ
の思ひとも思ひ分ちとも也

○ちりこも細玉の思ひ返夕霧の思ひ
なると思ひ玉の思ひといふ分別也

○ちりこも弄の思ひ物の思ひ
心也思ひと云羽の思ひ人し迷ハ一而
ん也

○ちりこも孟の思ひ眼の思ひ也

○ちりこも或母の思ひの思ひ
も夕霧の思ひの思ひ也

○ちりこも細の思ひも諸本異有拾遺
愚草物名も思ひ初め思ひと思ひとの思ひ
わい思ひ也假名の思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
思ひ思ひ也思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ

○是も思ひも弄服衣の思ひも思ひも
兄才の思ひ也春蘭其思ひも思ひも
蘭兄思ひも思ひも思ひも思ひも

○ちりこも河の思ひ同初也やうの思ひ
細徳而思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
ねと磯の思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
の思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ

おわり思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
らう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
まも思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
がう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
だも思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
おう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
あう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
えう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
あは思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
えも思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
との思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
らう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ

おわり思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
らう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
まも思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
がう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
だも思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
おう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
あう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
えう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
あは思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
えも思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
との思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ
らう思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ思ひ

○細作者の初

○人の君ハ細初て人の君とより尚侍也

○心譜に五水夕霧の初也日一り
實人の玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也

○心譜つては或抄夕霧の心也

○あやしくもやま一或抄何とやん心か

○入こそはひ細あへ引入也

○申くも 孟夕霧の心也

○今の夕霧をみて河野分の初は同時
紫上をみても也
孟これ又るを問のころくる也

○おまへよ 細 源氏のおまへ也
○出はひて 五水 簾中より源氏出也
○細玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也
○此又やつとを 細 源氏の初
河海のかまへまよ 流るるも也
或抄 玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也

あやしくもやま一或抄何とやん心か
入こそはひ細あへ引入也
申くも 孟夕霧の心也
今の夕霧をみて河野分の初は同時
紫上をみても也
孟これ又るを問のころくる也
おまへよ 細 源氏のおまへ也
出はひて 五水 簾中より源氏出也
細玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也
此又やつとを 細 源氏の初
河海のかまへまよ 流るるも也
或抄 玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也

あやしくもやま一或抄何とやん心か
入こそはひ細あへ引入也
申くも 孟夕霧の心也
今の夕霧をみて河野分の初は同時
紫上をみても也
孟これ又るを問のころくる也
おまへよ 細 源氏のおまへ也
出はひて 五水 簾中より源氏出也
細玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也
此又やつとを 細 源氏の初
河海のかまへまよ 流るるも也
或抄 玉うろくしん一ちく人こととせむを
やまらむとせむと也

○うらふも 細内は引く人なりてはとあ
まふりいひてはつる也

○うねとく 細兵乃大将も也

○うらとく 河徒 日本紀 資便
或抄 3のうらとくの媒也

○うの 湯と河手と入て吉野の湯ハせら
とと人乃心とてうととと也
孟くいひてはつる也

○うら 或抄 返答也
○中將と 細 夕霧也

○うらあかとも 或抄 うらあかのあか
うらあかのあかともあかあか
うらあかのあかともあかあか

○うらやとく 細 夕霧の返也
或抄 實人る也也

○うらとく のうらとく 孟玉うらの兄也

○頭中將乃 孟 柏木の俄よ
うらとく也 他人とあひてはつる也

○この使も 細内大臣うらの使も
柏木まうら也

○この使も 或抄 柏木の返可然る
兄分ゆとせとあひやう也

うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也

うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也
うらとくはつる人なりてはとあ
まふりいひてはつる也

〇〇〇 或抄 トリくPと柏木の無奥
いり也

〇人よハちり流ハも 或抄 柏木の躰ちり人
と草子地也

〇まりり流んかとの 細いつりまりり流んかとの
万水此下皆内府の語と頭中將りり流也

〇〇〇 或抄 入内の内意とあせせぬ
〇何れも 細内大臣ハ何れも人めとてりり流也

〇〇〇 或抄 まりり流んかとの
〇〇〇 或抄 まりり流んかとの

〇〇〇 或抄 頭中將りり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの

〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの

〇まりり流んかとの 孟外まじりり流也

〇〇〇 或抄 河北内の方也南面を
晴のりり流んかとの也

〇〇〇 或抄 細宰相とて物とてりり流也

〇〇〇 或抄 兄才の同よりり流んかとの
ハありまりり流んかとの也

〇〇〇 或抄 不審

〇〇〇 或抄 孟 柏木の詞とてりり流んかとの
衆王りり流んかとの也

〇〇〇 或抄 致仕の子とて兄カト
〇〇〇 或抄 玉りり流んかとの也

〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの

〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの
〇〇〇 或抄 弄兄才の心とまりり流んかとの

○河傾心比葵 蓬朝夕 春荒
今ハの心つくりよるはひのねぢひらうん
花 義孝集 こそれねとく こそれねと
つたあつてつたこまきせん
万水 既ハ入舟の夕定まねからうのあつた
何とせんかともうんもや也

○おちしめあへさう 細舟まつり けひひらうの
るまうこへんへさ也 今も各残るうんも也
○尺やのゆより 細兵官はう け中返有也

○心もてま 玉うも也 河傾心比葵 蓬朝夕 春荒
賦 百詠 菱荷依陸 時蒞佳而陽 綠葵含露 白
蕤負霜 潘安仁爾君賦 葵八月 又而葉 頃て根
とうも物也 下略 花此方 け心ハ目とハ君まう
まうて葵ハ心と目まひうハ物うれハ朝とく 痛と
ハ我ハえとわうい也 玉うもハ我ハ官うもハのう

○心もてま 玉うも也 河傾心比葵 蓬朝夕 春荒
賦 百詠 菱荷依陸 時蒞佳而陽 綠葵含露 白
蕤負霜 潘安仁爾君賦 葵八月 又而葉 頃て根
とうも物也 下略 花此方 け心ハ目とハ君まう
まうて葵ハ心と目まひうハ物うれハ朝とく 痛と
ハ我ハえとわうい也 玉うもハ我ハ官うもハのう

○心もてま 玉うも也 河傾心比葵 蓬朝夕 春荒
賦 百詠 菱荷依陸 時蒞佳而陽 綠葵含露 白
蕤負霜 潘安仁爾君賦 葵八月 又而葉 頃て根
とうも物也 下略 花此方 け心ハ目とハ君まう
まうて葵ハ心と目まひうハ物うれハ朝とく 痛と
ハ我ハえとわうい也 玉うもハ我ハ官うもハのう

○女の心とハ花 女の内定て官もさるひ
おんとやうにハおひおつ也
細花鳥玩 荷手つハの心とハ女の本もさる
也 此上とハ才一りて次ハ玉うもハ女の本も
ハこと云也 此物語ハ叫りハ取こハハハハ
弄同

心もてま 玉うも也 河傾心比葵 蓬朝夕 春荒
賦 百詠 菱荷依陸 時蒞佳而陽 綠葵含露 白
蕤負霜 潘安仁爾君賦 葵八月 又而葉 頃て根
とうも物也 下略 花此方 け心ハ目とハ君まう
まうて葵ハ心と目まひうハ物うれハ朝とく 痛と
ハ我ハえとわうい也 玉うもハ我ハ官うもハのう

心もてま 玉うも也 河傾心比葵 蓬朝夕 春荒
賦 百詠 菱荷依陸 時蒞佳而陽 綠葵含露 白
蕤負霜 潘安仁爾君賦 葵八月 又而葉 頃て根
とうも物也 下略 花此方 け心ハ目とハ君まう
まうて葵ハ心と目まひうハ物うれハ朝とく 痛と
ハ我ハえとわうい也 玉うもハ我ハ官うもハのう



